

北海道師範塾 「教師の道」 塾頭通信

第412号 平成24年10月12日

親孝行ランキング

「親孝行、したい時には親はなし」

「石に布団は着せられず」

親孝行というものは、親が活着ている間にしか出来ません。それは至極当然の事なのですが、大抵の人（私も含めて）は、親が死んだ時にこの言葉を噛み締める事になります。

「親が活着ている間に、もう少し親孝行しておくべきだった」と。まだ、親がご存命の方は、そうした悔いを残さないよう、心して頂きたいものです。

さて、今年8月、住友生命では、夏の帰省シーズンを前に「親孝行」に関するアンケートを実施し、その結果を発表しています。それを見ると、なかなか面白いので紹介しましょう。

問1 あなたにとって一番の「親孝行」とは何ですか？（複数回答）

1位 心配させない（19.6%）

2位 元氣でいる（18.6%）

3位 会う（13.7%）

4位 長生きする（12.9%）

等となっており、5位に孫との触れ合い（7.0%）、6位に会話する（5.6%）が続いています。

子から親に何かをしてあげる、例えば金銭的な援助をするというのはかなり低いランキングで、何はともあれ「親に心配かけないのが一番の親孝行」と考えている方が多いという事です。

親の立場からすれば、子どもの事は幾つになっても気懸かりなものですから、我が子が元氣で、幸せに暮らしてくれていれば、それだけで安心するものです。

もっとも、子どもから何かプレゼントされれば、それはそれで大変嬉しい事はいふ迄ありませんが・・・。

問2 あなたの親孝行度は何点ですか？

全体の平均は49.5点と、余り親孝行をしているとは感じていないようです。

20代は43.2点に対して、50代は52.4点となっており、年齢が高くなる程親孝行をしていると思っている人が多くなるようです。自分の年齢が上がるにつれて、親の苦勞が身に染みて来るということかも知れません。

男女にも差があって、男性46.4点に対して女性は52.5点となっています。持つべきは娘、ということになるでしょうか。

問3 あなたの子どもの親孝行度は何点ですか？

全体平均は65.8点と高得点です。「子どもから親孝行をしてもらっている」と感じている親が多いということですが、どの世代の親も子どもには甘いようです。

でも、「子どもに親孝行をしてもらっている」と感じられるのは、よしんばそれが例え勘違いであっても幸せな事です。

問4 この1年間で親孝行のためにいくら使いましたか？

親孝行の費用は、平均で年間13万7千円余りとなっています。

一方、親の為に全くお金を使わない人が3割もいます。そういう人も含めて約5割の人は1万円以下と回答しています。これらの方々は、お金が無くて使えないのか、はなから親の為に金を使おうという気がないのか、多少気になるところです。

現役世代の皆さんは、長引く経済不況によって給与も低く抑えられ、生活環境も不安定になっている中、自分達家族の生活を維持するだけでも大変になっています。親に使うお金にも、財布の紐がきつくなるのは仕方ありません。

また、子どもが親元を離れて遠くに住んでいる場合、旅費も掛かりますし、家族で里帰りするだけでも大変です。そう考えると、子どもには元気でいてくれるのが一番というのが、親としての偽らざる思いでしょう。

この、アンケート調査の結果を見ると、親孝行というのは、特別な事をする必要がないという事が分かります。

自分としては親孝行をしているとは思っていなくとも、親の方は親孝行をしてもらっていると感じているかもしれません。どんな些細なことでも、子から何かをしてもらったら、それだけで親は幸せを感じるものだと思います。

一番大事な事は、親と子の互いの気持ちが繋がっている事でしょう。気持ちが繋がってさえいれば、元気な顔を見せる、声を聞かせる、それだけでも十分な親孝行といえるでしょう。(塾頭：吉田 洋一)